



千葉×探究く千葉県から“つながる”未来を考えよう

2024年2月発行
発行元：千葉県商工労働部観光誘致促進課

本書の内容は、国連、その職員または加盟国の見解を反映するものではありません。
国連の「持続可能な開発目標」については、ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>

本書の全部または一部を無断で複写・複製することは、著作権法に基づき禁じられています。
本書の解説書・指導書・ワークブック並びにこれに類するものの無断発行を禁じます。

©2024 Chiba Prefectural Government.

The Notebook for Chiba Educational Travel

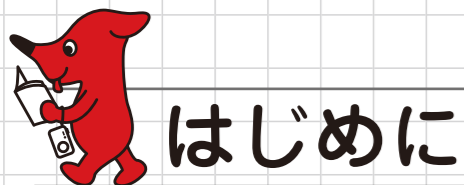
ちば教育旅行学習ノート 千葉×探究

千葉から“つながる”
未来を考えよう



学校名

年 組 番 氏名



千葉からはじめる探究

千葉県は、古くは上総、下総、安房という三国からなり、三方を海に囲まれ、温暖な気候と豊かな自然の恵みによって発展してきました。近年では、成田国際空港、幕張メッセ、国内有数のテーマパークなど日本を代表する施設が整備され、商業・工業が盛んになりました。首都圏に位置し、人口は全国第6位となった今でも、農林・水産業は全国トップクラスを誇っています。このように、海と緑に囲まれた豊かな自然環境、優れた都市機能・社会インフラ、バランスのとれた産業構造など、さまざまな顔を持っていることが千葉県の特色といえます。



今回の千葉県への旅行では、これらの特色に触れ、そこに住む人々がこれからの未来をどのように描いているのか考えてみましょう。

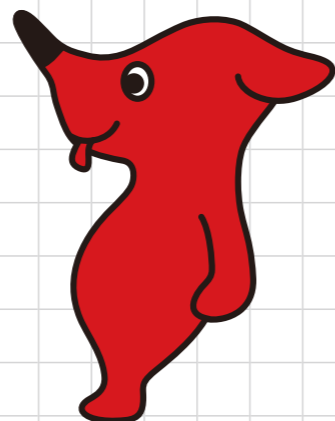
このノートは、旅行を通じ、これまで気がつかなかったことへ目を向け、自らの学びを深めていけるよう作られています。ぜひ現地で、見て・聞いて・感じて、多様な社会課題について考えるきっかけとしてください。

もくじ

このノートの構成

このノートは、事前学習（第1章～第3章）・現地学習（第4章）・事後学習（第5章）の3つのパートで構成されています。全体を通してSDGsを踏まえながら千葉県の特色に接し、考えたことや体感したこと、自分や身の回りについて深く考えていけるようになっています。

はじめに	02
第1章 千葉県全体を見てみよう	04
第2章 実りある千葉	06
第3章 事前学習	18
第4章 現地学習	22
第5章 事後学習	26



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。17のゴール(目標)と、さらに詳しい169のターゲット、232の指標で構成されています。「誰一人取り残さない」という理念を掲げ、全ての国連加盟国が2030年までに目標達成を目指しています。

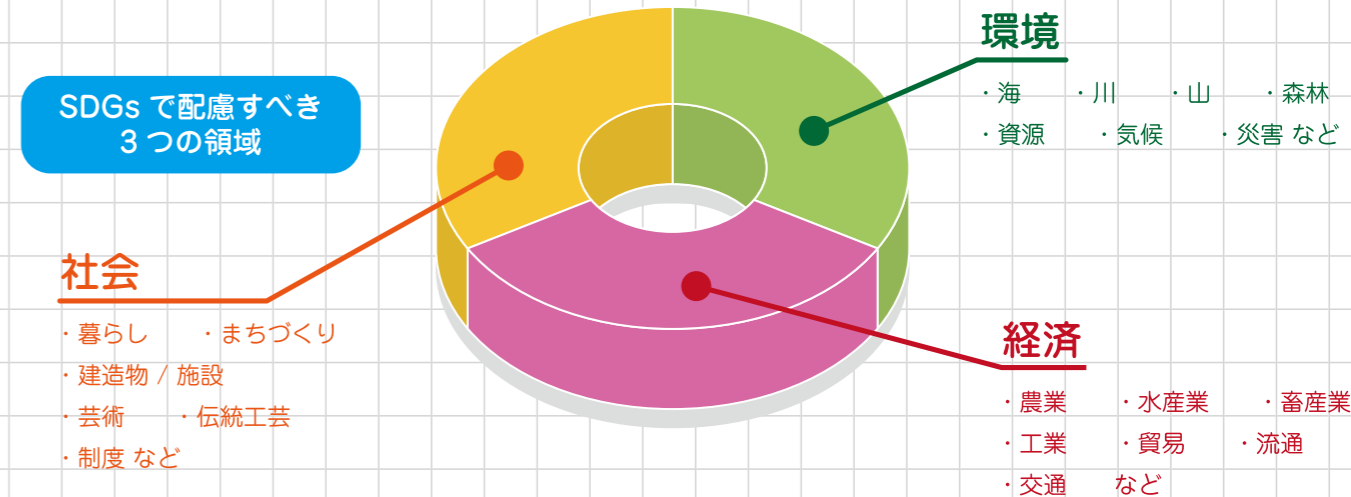
人類は、これまで文明を発展させることで繁栄を続けてきました。特に二十世紀後半以降は、新しい物を生み出し、より便利にすることで社会を成長させようという考え方が広まりました。その結果、環境破壊に伴う自然災害の深刻化、あるいは貧困や教育の格差拡大、人権に対する価値観の違いによる紛争など、さまざまな「社会課題」が発生したのです。

これらの課題の解消は、一部の国や人の取り組みでは成し得ません。なぜなら、世界はつながっており、これらの課題も国をまたいでつながっているからです。このため、「SDGs」という目標が世界的な取り組みとして掲げられました。SDGsは、一つの課題だけ解決すればいいというものではなく、17の目標それぞれが相互に関係しているため、総合的に取り組むことが重要です。一つの問題解決がほかの問題を引き起こすことがあり、根本的な解決には至らないこともあるため、必ずしも「問題の解決」を目指すだけでなく、目標達成のために社会の在り方を変えていく(変容させる)ことも求められています。したがって、解決策を見出すのではなく、目標達成のために現状最も良い答え「最適解」を見出していくことが大切なのです。

SDGsで配慮すべき3つの領域

SDGsは、さまざまな視点から見た課題への取り組みです。一つ一つの問題が独立しているのではなく、互いが複雑に関連し、連動し合っています。地球という大きな天体を、いかに持続させていくかを考えるのは、スケールが大きすぎて個人では手に負えません。しかし、自分の周囲での小さな取り組みの積み重ねが、身近な地域はもちろん、日本全体や世界の未来の課題の解決につながると考えると、自分でもできることがあるのではないのでしょうか。

SDGsでは、「環境」「社会」「経済」の3つの領域に配慮しながら、持続可能な方法で開発を進めていくことが大切とされています。3つの領域には以下のようなものが含まれています。



千葉県全体を見てみよう

千葉県は、三方を海に囲まれており、東京都、埼玉県、茨城県と隣接し、東京湾アクアラインで神奈川県ともつながっています。

6つのエリアを知ろう

ここでは、千葉県を6つのエリアに色分けし、それぞれの主な特色を周りに示しています。自分がこれから訪れる場所が、千葉県全体から見るとどのあたりにあるのかを確認し、その特色を押さえます。また、他のエリアと比べて、その違いがなぜ生まれているのかを考えておきます。調べたことや気づいたことがあれば、メモ欄に書き留めておきましょう(6ページから17ページも参考にしましょう)。

6つのエリアの魅力を調べてみよう



❖ RESAS で調べてみよう!

地域経済分析システム (RESAS: リーサス) とは、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化しているシステムです。千葉県や訪問先の市町村のデータを調べてみましょう。



<https://resas.go.jp/>

ひがかつしか 東葛飾エリア (P.06-07)

チーバくんの鼻あたり



- ・多様な企業、大学、研究機関が集積している。
- ・収益性の高い都市農業が展開されている。
- ・利根川と江戸川に囲まれ、手賀沼の豊かな自然が残る。

メモ

ベイエリア (P.08-09)

チーバくんの口あたり



- ・鉄鋼や食品などの企業が集積している。
- ・国内有数のテーマパークや大型商業施設がある。
- ・東京湾岸の干潟が残された水辺空間。

メモ

りんかい かずさ・臨海エリア (P.16-17)

チーバくんのおなかあたり



- ・日本有数の素材・エネルギー産業の企業が集積している。
- ・アクアライン、圏央道、館山道が交わる交通の要衝地域。
- ・潮干狩りなどが楽しめる東京湾の干潟や緑豊かな房総丘陵がある。

メモ

ほくそう 北総エリア (P.10-11)

チーバくんの頭と耳あたり



- ・成田空港周辺を中心に空港関連産業が集積している。
- ・物流施設やデータセンターの立地が進んでいる。
- ・銚子市沖が洋上風力発電の促進区域に指定。
- ・「日本遺産」認定の町並みなど、歴史的観光資源がある。

メモ

くじゅうくり 九十九里エリア (P.12-13)

チーバくんの背中あたり



- ・九十九里浜や緑豊かな里山などの自然環境がある。
- ・東京2020オリンピック競技大会のサーフィン競技会場がある。

メモ

みなみほうそう 南房総エリア (P.14-15)

チーバくんの手と足あたり



- ・温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、農林水産業も盛んである。
- ・これらを生かした観光、移住定住の促進に取り組んでいる。

メモ



2023年1月現在

東葛飾エリア



江戸川を挟んで東京と隣接し、多様な企業、大学、研究機関が集積しています。江戸との関わりが深く、古くは醤油やみりんづくり、現代ではその立地の有利性を生かし、野菜や果樹など生産性が高い都市農業が展開されているエリアでもあります。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和4年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和5年度千葉県年齢別・町丁目別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口割合		
					15歳未満	15-64歳	65歳以上
東葛飾エリア	1,534,758	5,685	0.37	4,033.6	12.2	61.2	26.6
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

このエリアには、県人口の24.3%にあたる約153万人が居住しています。65歳以上の高齢者の割合は26.6%と、県全体の割合より0.9ポイント低く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が61.2%となっています。都内への通勤・通学者が多く、日常生活における東京とのつながりが強いエリアです。



戸定邸（とじょうてい：最後の水戸藩主 徳川昭武の私邸）



手賀沼（てがぬま：利根川水系の湖沼）

2. 産業

このエリアは、東京に隣接し、成田国際空港・羽田空港（東京国際空港）へのアクセスに優れ、企業や大学研究機関が集積する産業基盤の充実した地域です。

電気機械、金属製品、一般機械を中心に、技術力のある企業が数多く立地するとともに、大学や研究機関などの集積を生かし、医療、バイオテクノロジーなどの先端技術産業分野の研究開発や、ベンチャー企業の育成なども活発に展開されています。

さらに、なしなどの果樹のほか、こまつなやほうれんそうなどの野菜の産地でもあります。大消費地に近接しており、収益性の高い都市農業が展開されています。



3. まちづくり

このエリアは、人口密度が高く、また、鉄道網の発達により、主要駅周辺を中心に、商業・アミューズメント施設や高層住宅など様々な都市機能が集積しています。一方で、江戸川、手賀沼などの豊かな水辺空間や、生活の潤いとなる自然環境も残されています。

JR常磐線沿線を中心に早くから商業が栄えるとともに、つくばエクスプレス沿線では大規模な土地区画整理事業により秩序ある住宅地・商業地等の形成が図られています。また、東京大学や千葉大学、公的研究機関などが最先端の研究を推進し、エネルギーや高齢化社会などの課題に対応する新しいまちづくりを目指すなど、企業や大学などと連携した国際学術都市づくりが展開されています。



柏の葉（かしわのは）スマートシティ全景（柏市役所提供）

4. 魅力紹介

野田の醤油・流山のみりん

千葉県は、醤油とみりんの生産量が全国第1位です。野田と北総エリアの銚子は醤油、流山はみりんの産地として知られていますが、これはこの地域が利根川や江戸川に接し、物資の輸送に便利だったことに起因します。大消費地である江戸等への出荷はもちろん、原料となる穀物や塩などの集荷にも、当時は水運が不可欠でした。利根川流域の都市が鉄道網で結ばれると、船による輸送は次第に鉄道に、さらにトラックへと変わっていきました。しかし、現在でも醤油やみりんは盛んに生産が行われ、日本の食卓を支えています。



流山のみりん醸造用具（流山市立博物館）

手賀沼

手賀沼は千葉県の北西部にある海跡湖で、かつては底が透き通って見えるほど水が澄み、子どもたちが遊べるほど美しく豊かな沼でした。しかし、流域の都市化の進行に伴う生活排水等の影響で、昭和49年から27年連続で湖沼水質汚濁日本一を記録するほどとなりました。その後、国・県・流域市村・市民などによる浄化対策事業により、平成13年にこの汚名を返上するに至りました。生活に潤いとやすらぎを与える、かけがえのない環境を守るために、現在でもさまざまな取り組みが行われています。



ベイエリア

チーパくんの
口あたり



東京への通勤の利便性などの理由から、人口が集中しているエリアで、国内有数のテーマパークや大型商業施設、都市に残された豊かな水辺空間なども合わせ持っています。また、鉄鋼や食品などの企業が集まっています。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和4年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和5年度千葉県年齢別・町字別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² あたり)	人口割合		
					15歳未満	15-64歳	65歳以上
ベイエリア	2,763,624	4,813	0.17	5,126.4	11.8	64.0	24.2
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

このエリアには、県人口の44%にあたる約276万人が居住しています。65歳以上の高齢者の割合は24.2%と、県全体の割合より3.3ポイント低く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が64%となっています。県内で最も人口密度が高いエリアです。



千葉港



幕張新都心

2. 産業

このエリアは、国際拠点港湾に指定されている千葉港があり、鉄鋼や食品などの企業集積が進んでいます。国内有数のテーマパークや大型商業施設なども立地しています。

さらに、大消費地に近接しており、収益性の高い都市農業が展開されるとともに、水揚げ量日本一のスズキを漁獲するまき網漁業や、アサリ、ホンビノス貝などを漁獲する採貝漁業が営まれています。



豊かな魚介類や海藻を育む浅海域・干潟「三番瀬(さんばんぜ)」

3. まちづくり

このエリアは、人口密度が高く、また、鉄道網の発達により、主要駅周辺を中心に、商業・アミューズメント施設や高層住宅などさまざまな都市機能が集積しています。一方で、東京湾、江戸川などの豊かな水辺空間や、生活の潤いとなる自然環境も残されています。

JR総武線沿線を中心に、東京への通勤の利便性から、いち早く人口の集積が見られ、また、幕張新都心においては、国際展示場、国際会議場を有する幕張メッセをはじめ、国際的な企業や商業施設等の立地、住宅整備が進んでいます。

4. 魅力紹介

千葉港

千葉港は東京湾の一角にあり、京葉工業地域を支える重要な港です。東京湾には千葉港をはじめ、東京港、川崎港、横浜港、横須賀港、木更津港など、大きな港が6つあります。中でも千葉港は、市川市、船橋市、習志野市、千葉市の4市、さらに「かずさ・臨海エリア」の市原市、袖ヶ浦市の2市にまたがり、海岸線の長さが約133キロメートル、水域面積は約24,800ヘクタール（東京ドームおよそ5,304個分）の日本一広い港です。

幕張新都心

幕張新都心は、東京都心と成田空港のほぼ中間に位置し、それぞれへ30分という優れた立地条件を有しています。アジア有数のコンベンション施設である幕張メッセを中核とし、オフィス、商業、アミューズメント施設、住宅設備など、「職・住・学・遊」の複合機能の集積が進み、就業者・居住者・就学者及び新都心への来訪者を合わせると、毎日約23万人の人々が活動するまちとなっています。

谷津干潟

東京湾の最奥部に残された約40ヘクタールの干潟。かつて大規模な埋め立てが進む中、地域住民や自然保護団体、行政など各関係者の取り組みによって、保存・保護され、1993年にはラムサール条約登録湿地となりました。渡り鳥の飛来地として、四季を通じて多くの野鳥が姿を見せます。隣接する谷津干潟自然観察センターからは干潟が一望でき、レンジャーが野鳥や干潟の案内を行っています。



北総エリア

チーハクんの頭と耳あたり



成田空港という国際的な人・モノの交流・連携拠点有するとともに、物流施設やデータセンターの立地が進んでいる地域です。江戸時代に水運で栄えた町並みの面影を残す地域では、これを活用したまちづくりが行われています。また、銚子市沖の海域では、洋上風力発電の導入に向けた取り組みが進められています。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和4年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和5年度千葉県年齢別・町丁字別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口割合		
					15歳未満	15-64歳	65歳以上
北総エリア	798,096	-1,411	-0.18	663.1	11.0	57.9	31.1
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

このエリアには、県人口の12.6%にあたる約79万人が居住しています。65歳以上の高齢者の割合は31.1%と、県全体の割合より3.6ポイント高く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が57.9%となっています。西部は、東京や千葉市への通勤・通学者の割合が多い一方で、成田空港を有することもあり、昼夜間人口比率が100%を大きく超えている地域もあるなど、周辺市町村に対して大きな吸引力を持っています。東部は、成田市と茨城県への通勤・通学者が比較的多く、日常生活においてこれらの地域とのつながりがあるエリアです。



成田国際空港（成田国際空港株式会社提供）



佐原（さわら）の伝統的町並み（香取（かとり）市）

2. 産業

日本の空の表玄関である成田空港があり、空港周辺や臨空工業団地を中心に、物流関係企業や航空関連産業が集まっています。

千葉ニュータウン（印西市）では、強固な地盤と地震災害リスクの低さといった理由などから、世界的企業も利用する物流施設やデータセンターなどの立地も進んでいます。

利根川沿いには優良な水田地帯が広がり、良質な米の産地として有名です。また、すいかや落花生の生産が盛んなエリアでもあります。水産業では、暖流の黒潮と寒流の親潮が交わる銚子沖の特色を生かした漁船漁業が盛んです。銚子漁港は、サバ、マイワシ等の多獲性魚やキンメダイ、マグロ類などの高級魚が水揚げされ、全国トップクラスの水揚量を誇るほか、これらの水産物を利用した多様な水産加工業が集まる全国有数の水産基地となっています。

また銚子市沖は、年間を通じて強い風が吹くなどの理由から、洋上風力発電の促進区域に指定されています。

3. まちづくり

空港周辺地域では、第3滑走路の新設などを含むさらなる機能強化の効果を、地域振興に結びつけるとともに、周辺地域と空港との共栄を目指し、落下物防止対策や航空機の騒音対策などの取り組みによる地域整備が進められています。

また、年間約1,200万人の参詣客が訪れ、県内第2位の観光スポットとなっている成田山新勝寺をはじめ、佐倉の武家屋敷群や佐原の伝統的な町並みなど「日本遺産（北総四都市江戸紀行）」に認定された歴史的な観光資源が豊富です。また「日本ジオパーク」に認定されている犬吠崎や屏風ヶ浦などの、多様な地形や豊かな自然などの地域資源を有効に活用し、各地で個性豊かなまちづくりが進められています。

4. 魅力紹介

洋上風力発電

銚子市沖の海域は、風況が良く洋上風力発電に適していることから「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」に基づく促進区域に指定されています。カーボンニュートラルの実現に向けた社会環境の変化の中で、発電施設の建設などに地元企業が携わることにより、新たな雇用創出につながるなど、地域経済の活性化に寄与することが期待されています。

銚子の醤油

紀州（現在の和歌山県）から、暖流（黒潮）に乗って移住してきた漁師が伝えたといわれるのが、紀州の特産品だった「醤油作り」です。銚子は、安定した気候と海に近く適度な湿度に恵まれています。醤油作りに欠かせないこうじ菌が動くのに適した土地であり、また、大豆などの原料が手に入りやすく、利根川を使って船で江戸に運べることもあって、生産が盛んになりました。醤油作りでは廃棄物がほとんど出ません。製造過程で出る「しょうゆ粕」は家畜の飼料に、「しょうゆ油」は、醤油の殺菌・風味づけに欠かせない火入れの工程でボイラー燃料に混ぜて使用するなど、SDGsの精神にぴったりのエコな食品です。



ヒゲタ醤油・工場見学（銚子市）

日本遺産

北総地域は、江戸に隣接し、利根川東遷*により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸のくらしや経済を支えていたエリアです。平成28年に「北総四都市江戸紀行～江戸を感じる北総の町並み～」として、日本遺産に登録された佐倉市・成田市・香取市・銚子市には、今も昔ながらの建物やその面影が残されており、東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができます。

*利根川東遷：とねがわとうせん。江戸時代のはじめ、徳川家康の命により、東京湾に注いでいた利根川の流を太平洋沿岸の銚子沖へと東側に大きく変えた歴史的な大事業。完成までに60年かかっています。



武家屋敷・旧武居家住宅（佐倉市）



九十九里エリア



全長約 66km 続く九十九里浜を中心とし、イワシやハマグリなどの資源に恵まれ、これらを使用した水産加工業が盛んな地域です。また、釣ヶ崎海岸が東京 2020 オリンピック競技大会のサーフィン競技会場になるなど、サーフィンをはじめとするマリレジャーのさらなる盛り上がりも期待されています。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和 4 年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和 5 年度千葉県年齢別・町丁目別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口割合		
					15 歳未満	15-64 歳	65 歳以上
九十九里エリア	432,492	-3,672	-0.87	449.4	9.0	53.5	37.5
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

このエリアには、県人口の 6.8% にあたる約 43 万人が居住しています。65 歳以上の高齢者の割合は 37.5% と、県全体の割合より 10 ポイント高く、また、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が 53.5% となっています。



九十九里浜全景



九十九里のマリンスポーツ（サーフィン）

2. 産業

日本有数の砂浜と松の緑が美しい九十九里浜や水田などが広がる九十九里平野、緑豊かな里山風景など多彩な自然に恵まれており、また、太平洋を北上する黒潮の影響を受け、年間を通じて温暖な気候となっています。

農業では、米、ねぎ、トマトなどバラエティに富んだ農作物の生産が盛んであり、本エリアにおける主要な産業の一つとなっています。また、古くからサンプスギと呼ばれる挿し木による林業が行われてきた地域として、全国的にも有名です。

水産業では、イワシやハマグリなどの資源に恵まれ、これらを使用した水産加工業も盛んに行われています。



サンプスギ

3. まちづくり

このエリアは、鉄道路線や圏央道が地域内を縦断しており、これらを利用したベイエリア、東葛飾エリア、都内への通勤・通学圏として、住宅等の設備が進められてきました。

国際環境認証「ブルーフラッグ*」を取得した本須賀海水浴場（山武市）をはじめ、多くの海水浴場があるほか、いちご狩りや地引き網などの体験型観光、テニスや乗馬などのスポーツを楽しむことができるなど、首都圏のレクリエーション地域として人気です。また、釣ヶ崎海岸が東京 2020 オリンピック競技大会のサーフィン競技会場となるなど、サーフィンをはじめとするマリレジャーのさらなる盛り上がりやオリンピックのレガシーを活用した地域活性化も期待されています。さらに、九十九里浜沿岸はヨードの世界有数の生産地であり、ヨードを含む天然温泉も多数存在しています。

また、廃校となった小学校などの空き公共施設を活用した企業誘致の取り組みも進められています。

*ブルーフラッグ：環境教育プログラムを通じて持続可能な発展を目指す国際団体である環境教育基金（FEE）が、ビーチマリーナにおける環境教育、水質、環境マネジメント、安全とサービスの状況について国際的に優れていることを認証する制度。

4. 魅力紹介



白子温泉

白子温泉は、地下 2,000m から汲み上げる「かん水」を温泉として利用しています。これは上総層群の第 3 紀から第 4 紀の地層中に含まれており、その中にはメタンを主成分とする天然ガスが溶け込んでいます。汲み上げられた「かん水」には、海底に沈んだ海草などが長い年月を経て分解・濃縮され、ヨウ素が多く含まれているのが特徴です。薄く黄色のお湯は「黄金の湯」とも称され、美肌効果や保湿効果に優れています。



伝統漁業「地引網漁」

九十九里浜は、かつてはイワシの地引網漁で全国に知られていました。そのルーツは、醤油と同じ紀州（現在の和歌山県）で、黒潮に乗って現在の白子町付近に漂着した紀州の漁師が、紀州熊野の地引網漁法を伝えたといわれています。江戸時代以降、九十九里浜はイワシ漁獲量日本一を長く誇り、食用だけでなく、農業用の肥料としても加工され、全国に出荷されて地域経済を支えていました。今も九十九里の海沿いには、いわし料理を提供する飲食店が多く並び、刺身など産地ならではの新鮮なイワシを味わうことができます。



地引網による大漁（九十九里町）



南房総エリア



数多くの漁港が存在し、水産業が盛んであるとともに、温暖な気候、豊かな自然や歴史・文化といった地域資源を活用したまちづくりが行われています。また、首都圏のリゾート地として、観光業が盛んなエリアとしても知られています。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和4年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和5年度千葉県年齢別・町丁目別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口割合		
					15歳未満	15-64歳	65歳以上
南房総エリア	184,586	-3,252	-1.79	184.5	8.1	48.6	43.3
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

このエリアには、県人口の2.9%にあたる約18万人が居住しています。65歳以上の高齢者の割合は43.3%と、県全体の割合より15.8ポイント高く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が48.6%となっています。県内で最も高齢化率が高いエリアです。



田園地帯を走るいすみ鉄道（いすみ鉄道株式会社提供）



和田漁港の調査捕鯨基地（南房総市）

2. 産業

多くの恵まれた漁場を有していることから、勝浦漁港や鴨川漁港、大原漁港等の数多くの漁港があり、カツオやアワビ、イセエビなどが水揚げされるとともに、地元水産物を利用した水産加工業が地域の重要な産業の一つとなっています。また、全国で4か所しかない沿岸小型捕鯨基地である和田漁港があり、特徴ある地域の食文化が保存されています。農業では、温暖な気候や豊かな自然を生かし、米を中心に、びわや花きなどの多彩な特産品が生産されています。

豊かな自然環境に恵まれていることから、多くの観光施設や宿泊施設などがある観光業の盛んなエリアです。夏は海水浴、冬から春にかけては花摘みやいちご狩りといった観光とともに、サーフィン、SUP（スタンドアップパドル）やダイビングなど多様なマリンスポーツも楽しめます。道の駅や直売所も充実していて、新鮮な農林水産物や加工品を販売するほか、農業体験などの体験型観光も魅力です。個人旅行だけでなく、自然環境を生かした教育旅行や学生のスポーツ合宿など、団体旅行の受け入れにも取り組んでいます。さらに、近年は、「食」による観光振興も盛んになっています。

3. まちづくり

このエリアでは、豊かな自然や歴史、文化等の地域資源を生かしたまちづくりが進められており、温暖な気候や海を生かした風光明媚なリゾート地、漁港や桟橋を中心とした港町、歴史的な建物が今も残る城下町のほか、先進医療機関を生かした医療・介護のまちづくりなども進められています。

また、アクアラインと一体となって広域的な幹線道路ネットワークを形成する道路が整備されることにより、東京・神奈川やベイエリア、東葛飾エリア、かずさ・臨海エリアとの交流・連携機能の強化が図られています。

こうした取り組みにより、首都圏における移住・定住先としての人気が高い地域となっています。

4. 魅力紹介



勝浦の朝市

日本三大朝市の一つ、「勝浦朝市」は、休日だけでなく平日も地域住民の暮らしを支える生活朝市として開催されています。豊富な魚介類や農作物の他にも、加工品やその場でいただける飲食物などさまざまな物品が販売されています。出店者の高齢化や後継者問題を抱える一方で、新しい出店者や若い人材も増えています。2019年に始まった「あさいちマルシェ」には、ハンドメイドの雑貨、手作りのお菓子など個性あふれる店舗が集まり、少しずつ新しい形態として広まってきました。都心から100キロメートル圏内という立地も、新たなチャレンジを後押ししている要因になっているといえます。昔からある「市場」の形を生かしつつも、時代の変化に合わせて新しいものと融合させていく姿が、ここで見られます。



日本有数の捕鯨基地

太平洋側に位置する南房総市和田町には、全国で4か所しかない（関東では唯一）沿岸小型捕鯨基地があります。江戸時代初期に、鋸南町勝山で組織的な捕鯨が開始され、その後漁場が南方へと広がるにつれ、南に拠点が移り、現在では和田町の会社が伝統の捕鯨業を引き継いでいます。捕獲された鯨は、解体された後、一般消費者にも販売されています。特に、鯨肉の干物である「たれ」が好まれています。地域により食べ方や作り方が異なり、長い捕鯨の歴史の中で、鯨食がこの地域に根付いてきた食文化であることが分かります。

南房総の名産品・びわ

房総半島の最南端を含む南房総市は、びわの産地としても有名です。明治42年から皇室へ毎年献上している「房州びわ」は、栄養価も高くおいしいと評判です。びわを使ったスイーツも人気を呼んでいます。近年では、規格外品のびわや、剪定時に捨てられていたびわの葉を活用した加工品の開発などの取り組みも行われています。



かずさ・臨海エリア

チーバくんのおながあたり



日本を代表する素材・エネルギー型産業の工業地帯があり、東京湾アクアラインをはじめとする道路網を介し、他地域との交流機能も備えている地域。また、潮干狩りなどが楽しめる東京湾の干潟や緑豊かな房総丘陵などの自然環境も有しています。

1. 地域に暮らす人々

出典：千葉県「令和4年千葉県毎月常住人口調査報告書」「令和5年度千葉県年齢別・町字別人口」／（単位：人、%、km²）

エリア	人口数	増減数 (R4.1.1~R5.1.1)	増減率 (R4.1.1~R5.1.1)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口割合		
					15歳未満	15-64歳	65歳以上
かずさ・臨海エリア	593,914	-2,919	-0.50	521.6	11.2	58.3	30.5
千葉県	6,307,470	-756	-0.01	1,216.3	11.5	61.0	27.5

※人口割合は、小数第三位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

このエリアには、県人口の9.4%にあたる約59万人が居住しています。65歳以上の高齢者の割合は30.5%と、県全体の割合より3ポイント高く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が58.3%となっています。東京湾アクアライン（以下アクアライン）などの交通網整備の効果により、東京・神奈川方面や県内各地など多方面への通勤・通学圏となっています。



東京湾アクアライン



新富津漁港・海苔採取船

2. 産業

東京湾臨海部の埋め立てにより、日本を代表する素材・エネルギー型産業の工業地帯が広がるエリアです。

木更津市の「かずさアカデミアパーク」には、かずさDNA研究所をはじめとする研究開発施設や製薬、新素材など幅広い産業の立地が進められてきました。さらに、アクアラインの通行料金割引（普通車800円など）の効果もあり、東京・神奈川方面とのアクセスが向上したことから、アクアライン周辺地域では大規模商業施設や工業団地などの立地が進んでいます。

農業では、米、なし、ブルーベリーなどの栽培が盛んであるとともに、全国有数のカラーの生産地であり、水産業では、品質の高さが全国的に有名なノリの養殖や貝類漁業、小型底引き網漁業*などが営まれています。

また、海ほたるや大規模商業施設、ゴルフ場など集客力の高いスポットが多数存在するほか、近年の工場夜景ブームを受けて、市原市の石油化学コンビナートを中心とした東京湾臨海部の工場群も観光資源となっています。

*小型底引き網漁：こがたそこびきありょう。船で袋状の網をひいて多彩な魚を獲る方法。港から1時間前後の沿岸漁場で水深100~500メートルの海底にいる魚介を狙います。網を船尾から海中に入れて、1時間ほどひいたら巻き上げて漁獲し、またすぐに網を入れる。1日の漁でこれを数回繰り返します。

3. まちづくり

アクアラインなどを利用した各方面への通勤・通学圏としての優位性が高まっており、千葉県の玄関口であるアクアライン着岸地周辺には、大規模な土地区画整理事業が実施され、道路、住宅地、商業施設等の整備が進められています。

また、圏央道などの整備進展による利便性向上等の効果を、他のエリアに波及させるアクセス道路の整備も進められています。こうした、計画的で住みよいまちづくりと道路ネットワークの整備進展によって、居住地としての人気も高まっています。

4. 魅力紹介

観光名所・鋸山

鋸山は、富津市と鋸南町との境に位置する標高329mの景勝地。ロープウェイで空中散歩を楽しんだ先の日本寺内では、「地獄のぞき」から大迫力の眺望が味わえます。かつてこの山は、「房州石」と呼ばれる、加工しやすく、耐火性にも優れている建築用石材の石切場としても栄えていました。また、このエリアは緑豊かな房総丘陵があり、自然に囲まれたレジャースポットが充実していることから、キャンプなどで訪れる人も多いところです。



鋸山「地獄のぞき」



京葉臨海コンビナート

京葉臨海コンビナートは、石油精製、石油化学、鉄鋼など素材・エネルギー産業の国内最大の製造拠点であるとともに、それらの研究所も立地する中核的な拠点であり、千葉県の製造品出荷額の5割を超える、経済の要です。



京葉臨海コンビナートの夜景

事前学習 ① 千葉ってどんなところだろう…



これから千葉県を旅行するにあたって、より学びを深めていくために、まずは千葉県のうち、訪問するエリアについて、持っている知識や印象をここでまとめておきましょう。

千葉について調べよう

(1) 千葉県は、優れた都市機能を持ちながらも、房総半島を囲む海や房総丘陵一帯に広がる豊かな緑（山・里）など、さまざまな特徴がある県です。これから訪問するエリアがどのような特徴を持つのか、「都市」「海」「緑」の観点から調べたことや考えたことを書きましょう。

都市

企業、工業地帯や交通網など都市に関連することを書きましょう。

海

港や漁業、ビーチなど、海に関連することを書きましょう。

緑

農業や酪農、自然の景観など、山や里に関連することを書きましょう。

(2) (1) で書いたことから、訪問するエリアに対しどんな印象やイメージを持ちましたか。旅行後の変化を後から確かめるために、書き留めておきましょう。

事前学習 ② 体験することを調べよう



訪問する施設について調べよう

(1) 訪問先と体験の内容についてまとめましょう。事前学習の資料(動画やオンライン講座、ホームページ、パンフレットなど)を用いて、体験する内容や訪問する施設などについて調べたことを書きましょう。

訪問する施設やスポット名	体験内容
事前学習で調べたこと	

(2) 訪問する施設やスポットは、SDGsで配慮すべき3つの領域「環境」「社会」「経済」(03ページ)のどれに深く関わっていると思いますか。丸をつけてください(複数選んでもかまいません)。理由も合わせて書きましょう。

環境 ・ 社会 ・ 経済

理由

(3) 体験する内容について、下の観点で気になることを書き留めておきましょう。

- 興味をもったこと
- 楽しみなこと

- 疑問に思ったこと
- 質問してみたいこと

(4) (3)で書いたことから、最も知りたいと思ったことを理由と合わせてまとめましょう。現地で体験するときに、着目するきっかけとなります。

❖ 最も知りたいこと

❖ 知りたいと思った理由

現地学習メモ①



現地での体験や訪問した施設で、見聞きしたことや感じたこと、気づきなどをメモします。旅行後に振り返る際に、参考にできるようにしておきましょう。

体験した内容を書きましょう。

訪問先の方から聞いたことや、現地で発見したこと、初めて知ったことなどを、〈見たこと〉〈聞いたこと〉に分類してメモを取りましょう。うまく分類できないときは、24、25 ページにメモしておくだけでもかまいません。

見たこと

聞いたこと

その他、気づいたことや感想などをメモしておきましょう。

気づいたこと・感想



現地学習メモ②



旅行前の学習で考えた質問や疑問について、旅行中に分かったことや新たに知ったことなどがあれば、ここにメモしましょう。

Large empty yellow rectangular area for writing notes on page 24.

Large empty yellow rectangular area for writing notes on page 25.

事後学習 ① 旅での体験をまとめよう



体験したことについてまとめよう

(1) 実際に体験したことや見聞きしたことから、自分が印象に残ったことを、下のスペースに写真を貼ったりイラストや図を描いたりしてまとめましょう（いくつでもかまいません）。空いたスペースには、吹き出しなどをつけて言葉で補足してもかまいません。

訪問した施設やスポット名	体験内容
体験で印象に残ったこと	

(2) 体験したことによって、新たに気づいたことや発見したことはありましたか。体験先でうかがった話やインタビューした内容も参考にして記入しましょう。

(3) なぜ(1)のように印象に残ったり、(2)のように新たに気づいたりしたのでしょうか。

(4) (1) や (2) で書いたことは、SDGs で配慮すべき3つの領域のどれに該当するでしょうか。丸をつけましょう（複数選んでもかまいません）。そう思った理由も書きましょう。

環境 ・ 社会 ・ 経済

理由



事後学習 ② 千葉から学んだことをまとめよう

「千葉を学ぶ」から「千葉から学ぶ」へ

(1) 26～27ページでは、千葉県で体験したことを振り返り、自分の感じたことをまとめました。その中でも、自分が「最も印象に残ったこと」は何でしたか。

(2) (1)で記入したことが「魅力的と感じて印象に残ったこと」の場合には、それを伸ばすための方法を、また、「好ましくないと感じて印象に残ったこと」の場合は、それを改善するための方法を考えてみよう。関連する人や場所、取り組み、体験先で伺った話などを参考に、まずは自分自身の考えを記入しよう。それから、一緒に体験したグループのメンバーと発表をし合って、考えを広げてみましょう。

自分の考えや意見を書こう

グループのメンバーの考えや意見をメモしよう

事後学習 ③ 自分の住む地域について考えよう



普段の生活の中で、自分の住む地域について深く考える機会はそこまで多くないことでしょう。千葉県での学びをもとに、自分の住む地域の魅力は何か、それをどのようにこれから先の未来につなげていきたいかを考えましょう。

自分にとっての地域とは

(1) 自分の住む地域と千葉県で訪れた場所とでは、どんな共通点(似ているところ)や相違点(異なるところ)があるかを考えて、それぞれ書きましょう。

共通点

相違点

(2) 自分が住む地域には、どんな魅力や特徴があるでしょうか。また、それを維持・発展させるためにはどのような方法があるでしょうか。千葉県での体験やこれまでの学習を踏まえて、自分の住む地域のことを考えてみましょう。

魅力や特徴

方法

よりよい未来のために

自分の地域の魅力を未来につなげていくために、自分自身が何をすればいいかを考えます。これまでの気づきや考えたことから、ほんの少しのアクションでも自分の行動の変容が未来につながるということが分かったことでしょう。これらを踏まえて、下の空欄に言葉を埋めていきましょう。



千葉県への旅行を振り返って、自分が現在住んでいる

自分の住む市町村、地域などを書こう

には

共通する魅力があると感じたスポットや伝統、名産、行事などを書こう

という魅力があると感じた。この魅力を、自分は……

▼自分の考えに近いものに丸をつけよう

維持したい ・ **発展させたい**

と思った。そのために必要なのは、

どうすると理想に近い形になるか想像して書こう

であると思う。

だからこそ、自分はこれからの行動を以下のように変容させたいと考えている。

これから自分の行動で変化させたいことや、取り組みたいことを書こう